

# Autumn Report 2018

---

秋季（9～11月）における海難の傾向分析

# レポートの概要

本レポートは、秋季（9月から11月）における海難防止に資することを目的に、平成25年から平成29年までの5年間に発生した事故状況から、海難傾向について分析を行い、船舶海難と人身海難の特徴や注意点を整理したもので、これをもとに秋季の海難防止啓発活動を推進するとともに、漁船の運航者や釣り愛好者の安全意識向上を目指すものです。

## レポートの目次

◆ レポートの概要	1
◆ 海難定義の見直しについて	2
◆ 船舶海難	3～13
1 船舶海難 事故事例	4
2 秋季における船舶海難発生状況	5
3 プレジャーボート海難の発生状況	6
3 <b>漁船</b> 海難の発生状況	7～12
4 まとめ	13
◆ 人身海難	14～26
1 人身海難 事故事例	15
2 秋季における海浜事故発生状況	16
3 <b>釣り中</b> の事故発生状況	17～25
4 まとめ	26

# 海難定義の見直しについて

- 平成30年4月に海難定義の見直しを行い、平成30年1月に遡って新定義を適用。
- 統計資料は、基本的に新定義を用い、必要に応じ過去データを参考使用。（ 〇 ）

## 主な見直し部分

- ・ 海難の形態を新たに定義
  - 船舶海難：「船舶事故（アクシデント）」と「インシデント」
  - 人身海難：「人身事故」と「その他の人身トラブル」
- ・ 海難種類の名称及び詳細区分を分かりやすく変更
  - （例）「衝突」 船舶同士の衝突である「衝突」と物件との衝突である「単独衝突」に区分
  - 「機関故障」 「運航不能（機関故障）」
  - 「安全障害（走錨）」 「運航不能（走錨）」
  - 「運航障害（燃料欠乏）」 「運航不能（燃料欠乏）」
- ・ 民間救助機関（BAN、日本ライフセービング協会）のみが対応した海難についても、形態区分を行って件数に計上

本レポートでの海難種類は、新しい海難定義の名称を用いたものとなります。

但し、本レポートで使用する海難データは新定義適用前のものであり、新定義に基づく形態区分が遡って行われないことや、民間救助機関の対応した海難件数が不明であることから、「新定義を用いた過去データの参考使用」という形になります。

# 船舶海難

---

# 1 船舶海難 事故事例

## 【船舶事故】

発生日時 平成29年9月23日(土)  
午前6時45分頃

発生場所 島根県松江市江島650m沖

概要 釣り中のプレジャーボートA(64歳男性船長、1名乗船)に漁場向け航行中の漁船B(80歳男性船長、2名乗船)が衝突した。A船長は病院に搬送され、両下腿部打撲等の負傷。B乗船者に怪我なし。



衝突・転覆したプレジャーボートA

## 【船舶事故】

発生日時 平成29年9月27日(水)  
午前5時30分頃

発生場所 福井県小浜市蘇洞門沖の定置網

概要 漁船C(83歳男性船長、2名乗船)は漁を終えて帰港中、定置網に乗り揚げ、定置網のアンカーロープがプロペラに絡まり航行不能となった。Cは定置網所有者のロープ除去作業により離脱。乗船者に怪我なし。



定置網を離脱後の漁船C

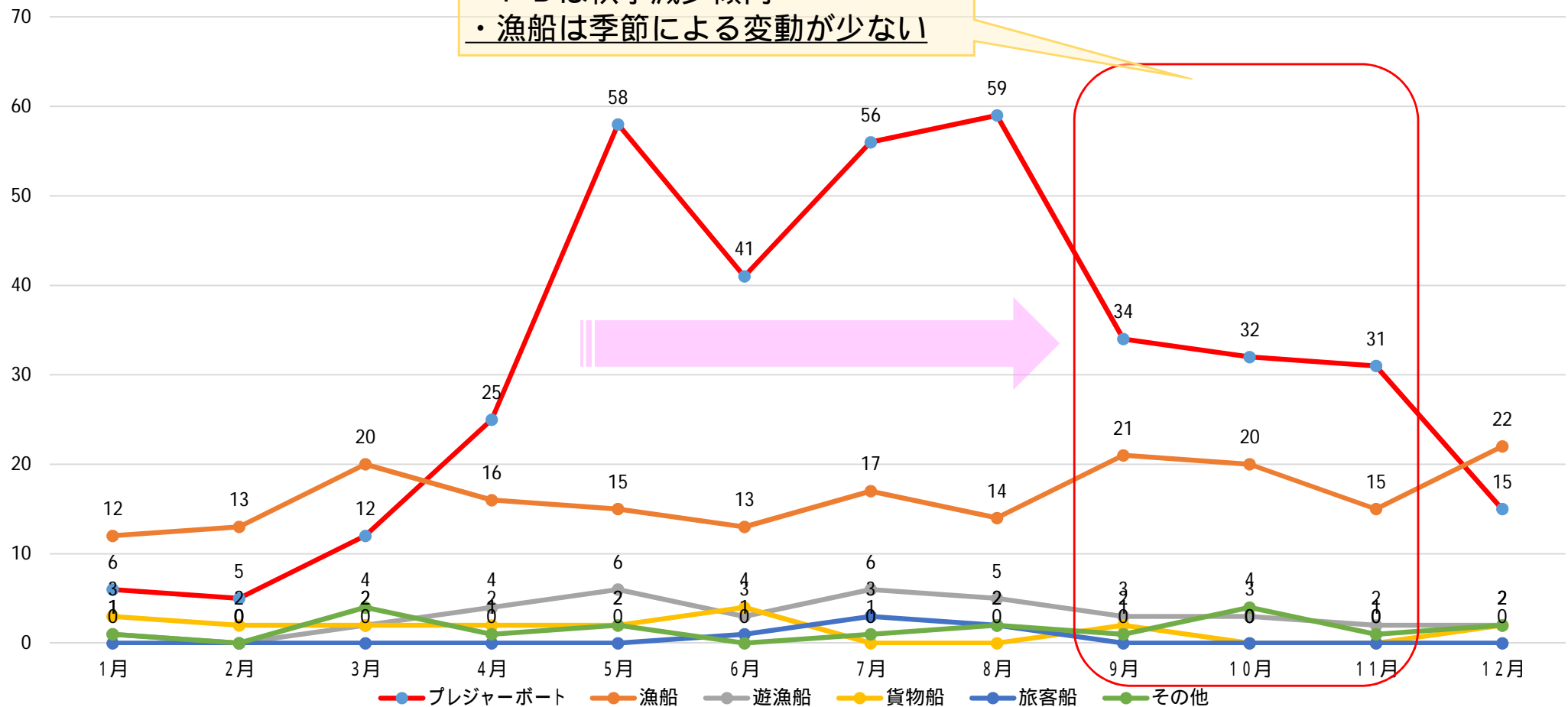
## 2 秋季における船舶海難発生状況

- ▶ 秋季において、プレジャーボート海難は減少傾向にあるが、漁船海難は季節による変動が少ない

船舶種類別の推移 [過去5年(H25~H29)]

- ・ P Bは秋季減少傾向
- ・ 漁船は季節による変動が少ない

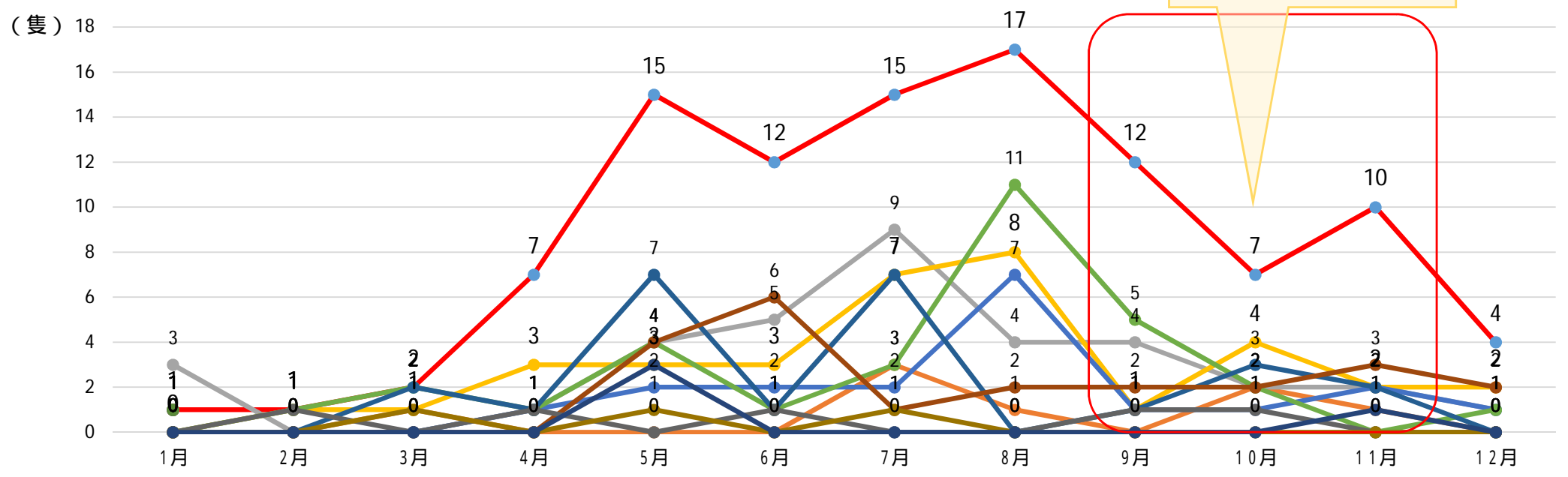
(隻)



# 3 プレジャーボート海難の発生状況

➤ 秋季におけるプレジャーボート海難は、運航不能（機関故障）が最も多く、全体の7割近くを占めている

プレジャーボート海難種類別の月別推移  
(過去5年 (H25~H29))

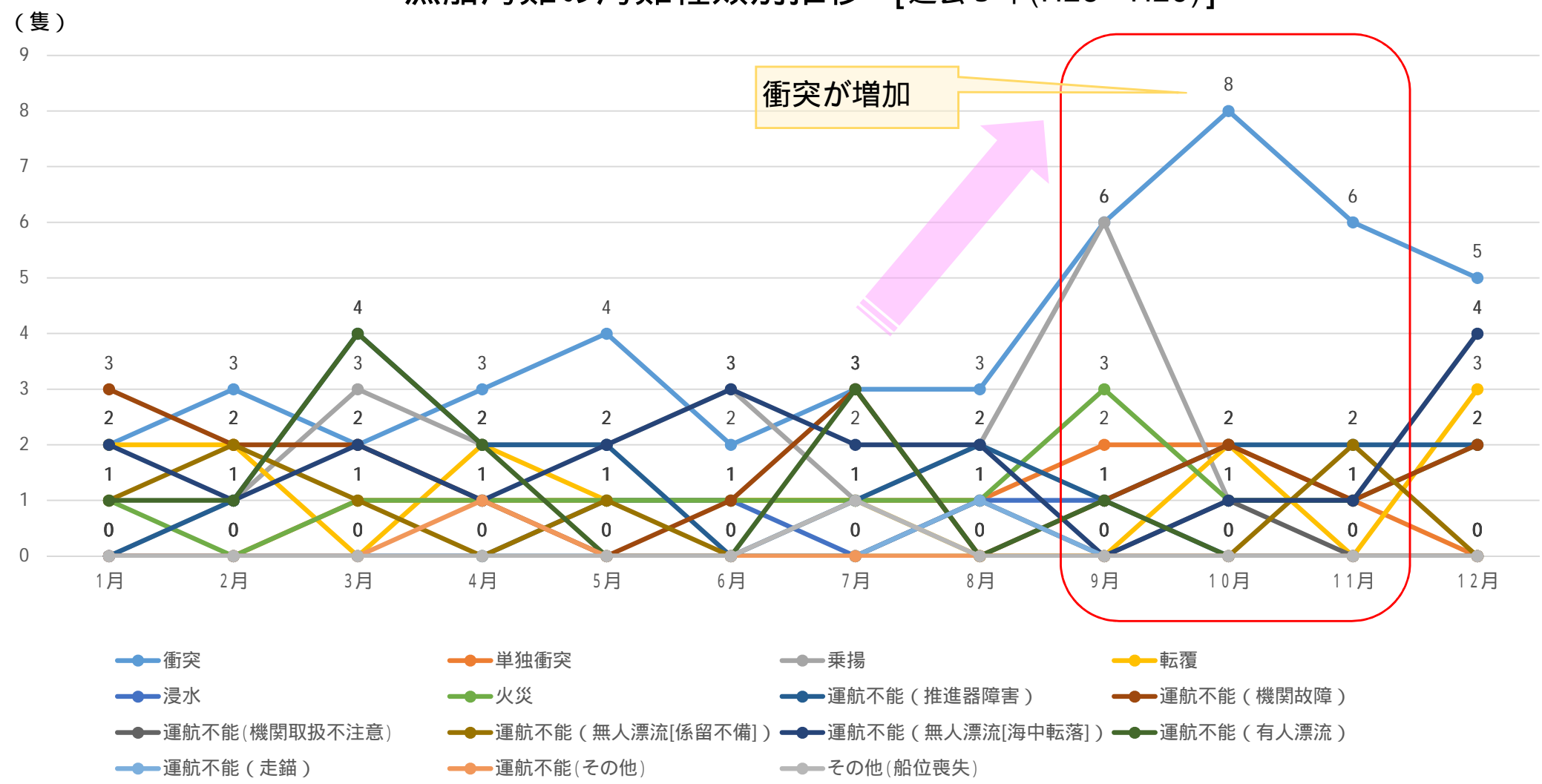


- 運航不能（機関故障）
- 単独衝突
- 乗揚
- 衝突
- 浸水
- 運航不能（推進器障害）
- 運航不能（荒天難航）
- 転覆
- 運航不能（舵障害）
- 火災
- その他（その他）
- 運航不能（無人漂流（係留不備））
- 運航不能（バッテリー過放電）
- 運航不能（燃料欠乏）
- 運航不能（無人漂流（海中転落））
- 運航不能（走錨）
- 運航不能（その他）
- その他（船位喪失）
- 運航不能（機関取扱不注意）
- 運航不能（有人漂流）
- 運航不能（有人漂流）
- 運航不能（ろ・かい喪失）

# 4 - 1 漁船海難の発生状況(海難種類)

- 秋季における漁船海難では、船舶との「衝突」が増加し多発している
- 秋季における衝突（20隻）のうち、6割（12隻）が漁船同士の衝突である

漁船海難の海難種類別推移 [過去5年(H25~H29)]

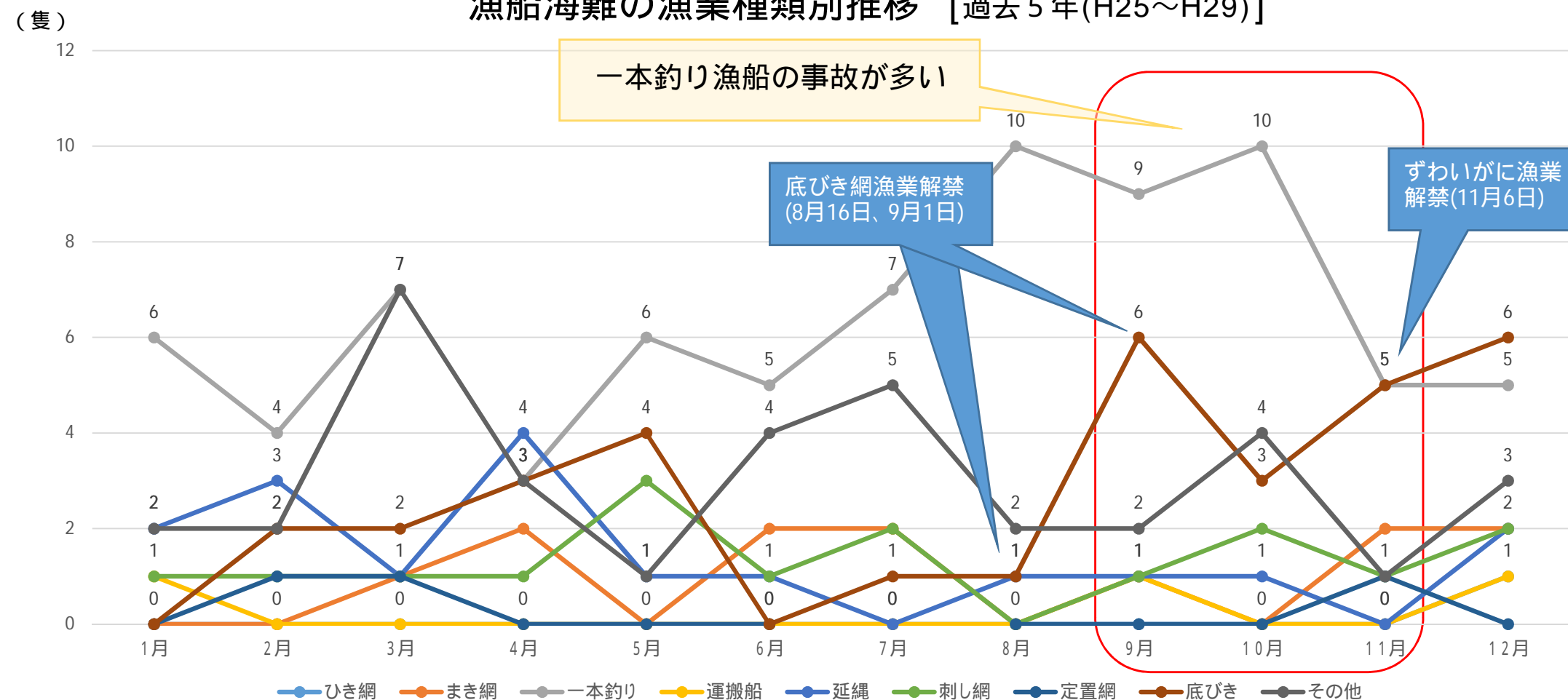




## 4 - 2 漁船海難の発生状況（漁業種類）

- 秋季における漁船海難では、「一本釣り漁船」の事故が多く発生している
- 秋季は沖合底びき網漁業の解禁（9月1日、管内西部の二そうびきは8月16日）及びずわいがに漁業の解禁（11月6日）が含まれることから、「底びき網漁船」の事故が他の時期に比べて多い

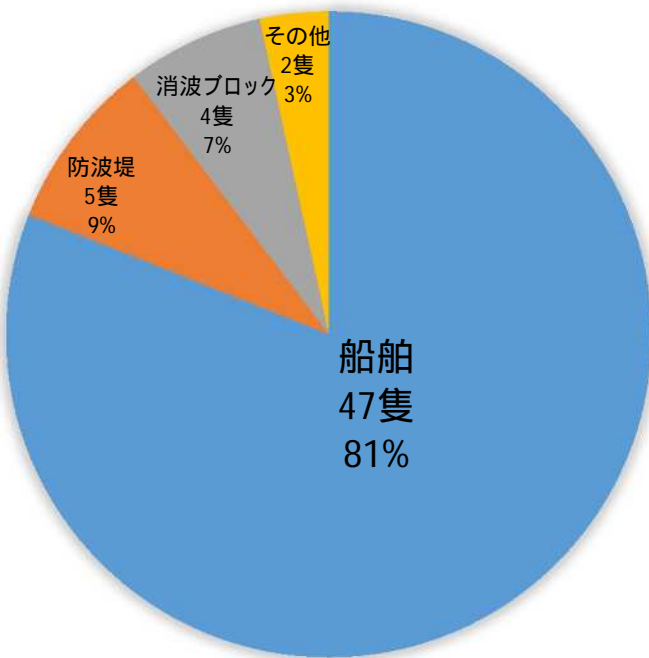
漁船海難の漁業種類別推移 [過去5年(H25~H29)]



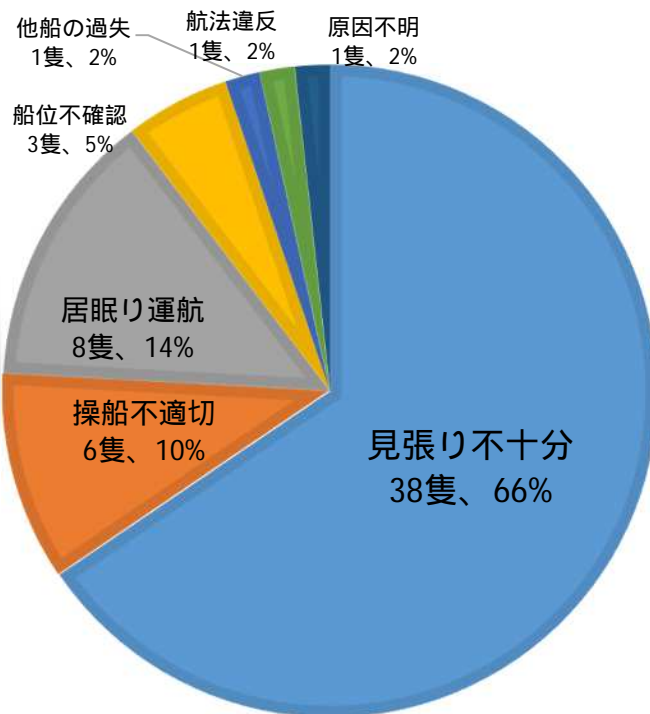
# 4 - 3 漁船海難の発生状況（衝突の対象・原因）

- 漁船の衝突海難は、物件への「単独衝突」よりも船舶同士の「衝突」が多い
- 衝突海難の主原因は、「見張り不十分」が多い
- 衝突海難発生時の運航形態は、「操業に没頭中」が多い

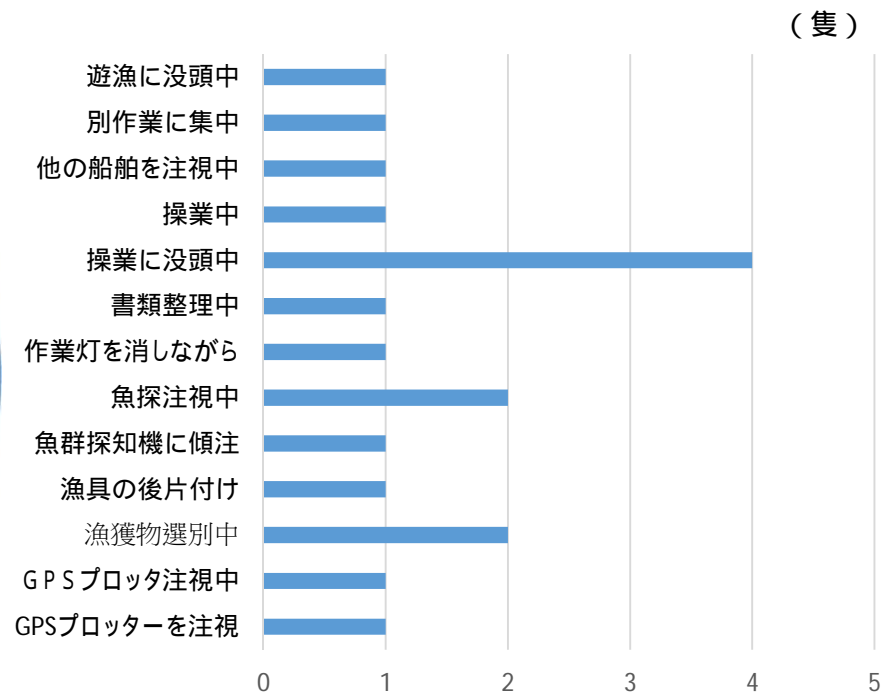
衝突海難の対象  
[過去5年(H25~H29)]



衝突海難の原因  
[過去5年(H25~H29)]



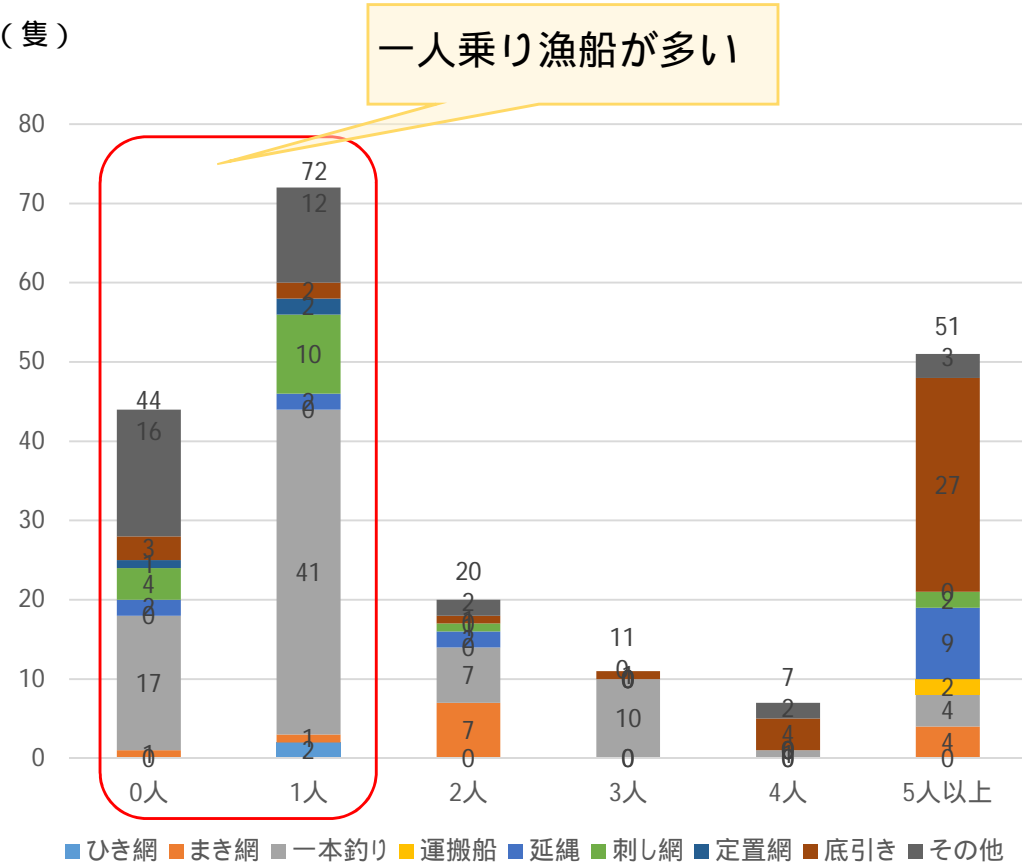
衝突海難の運航形態  
[過去5年(H25~H29)]



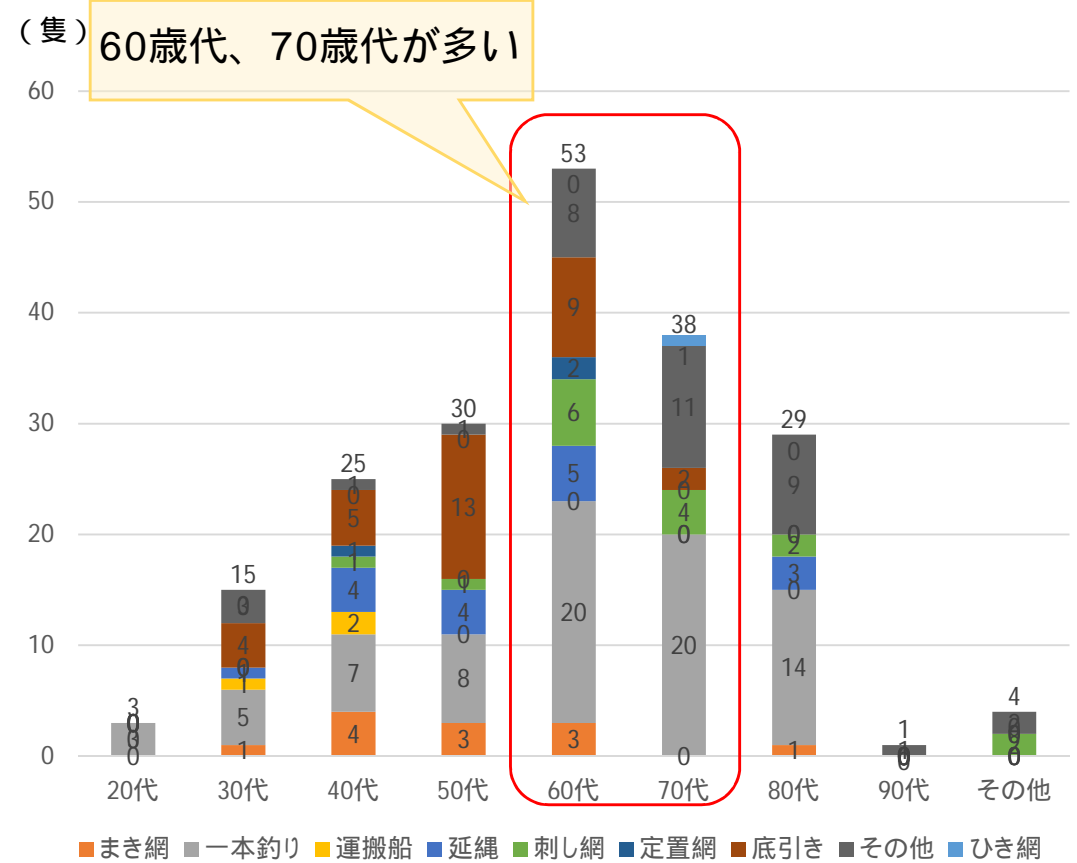
# 4 - 4 漁船海難の発生状況（乗船人数・船長の年齢）

- 漁船海難の乗船者数は、「一人乗り」が最も多い
- 漁船海難の船長の年齢は、「60歳代」が最も多く、次に「70歳代」が多い  
(約6割が60歳以上による事故)

漁船海難の乗船者数  
[過去5年(H25~H29)]



漁船海難の船長の年齢  
[過去5年(H25~H29)]

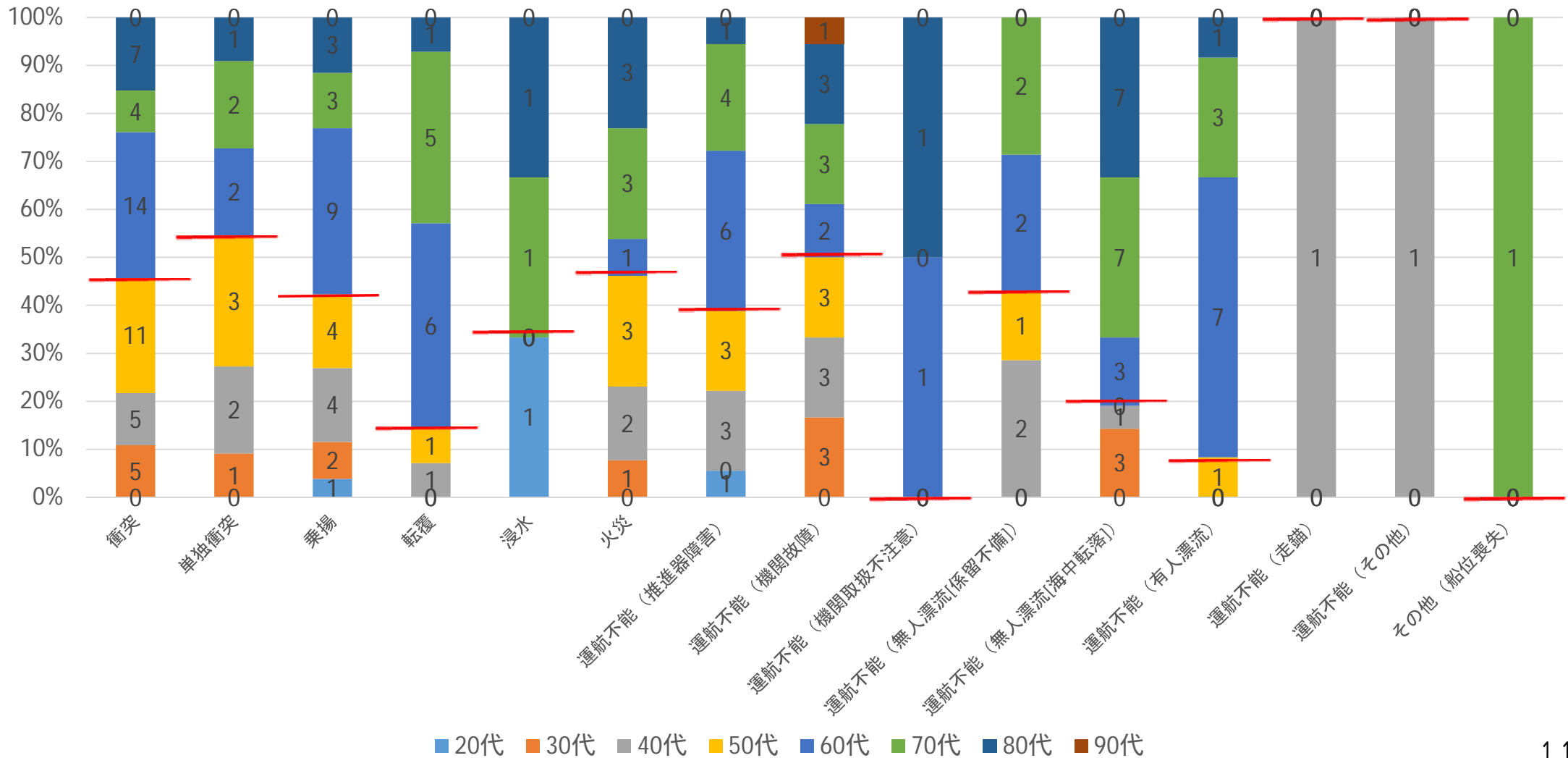


# 4 - 5 漁船海難の発生状況（海難種類別船長の年齢構成）

➤ 漁船海難種類別に60歳以上の船長の比率を見ると、多くの海難で半数以上の割合を占めている

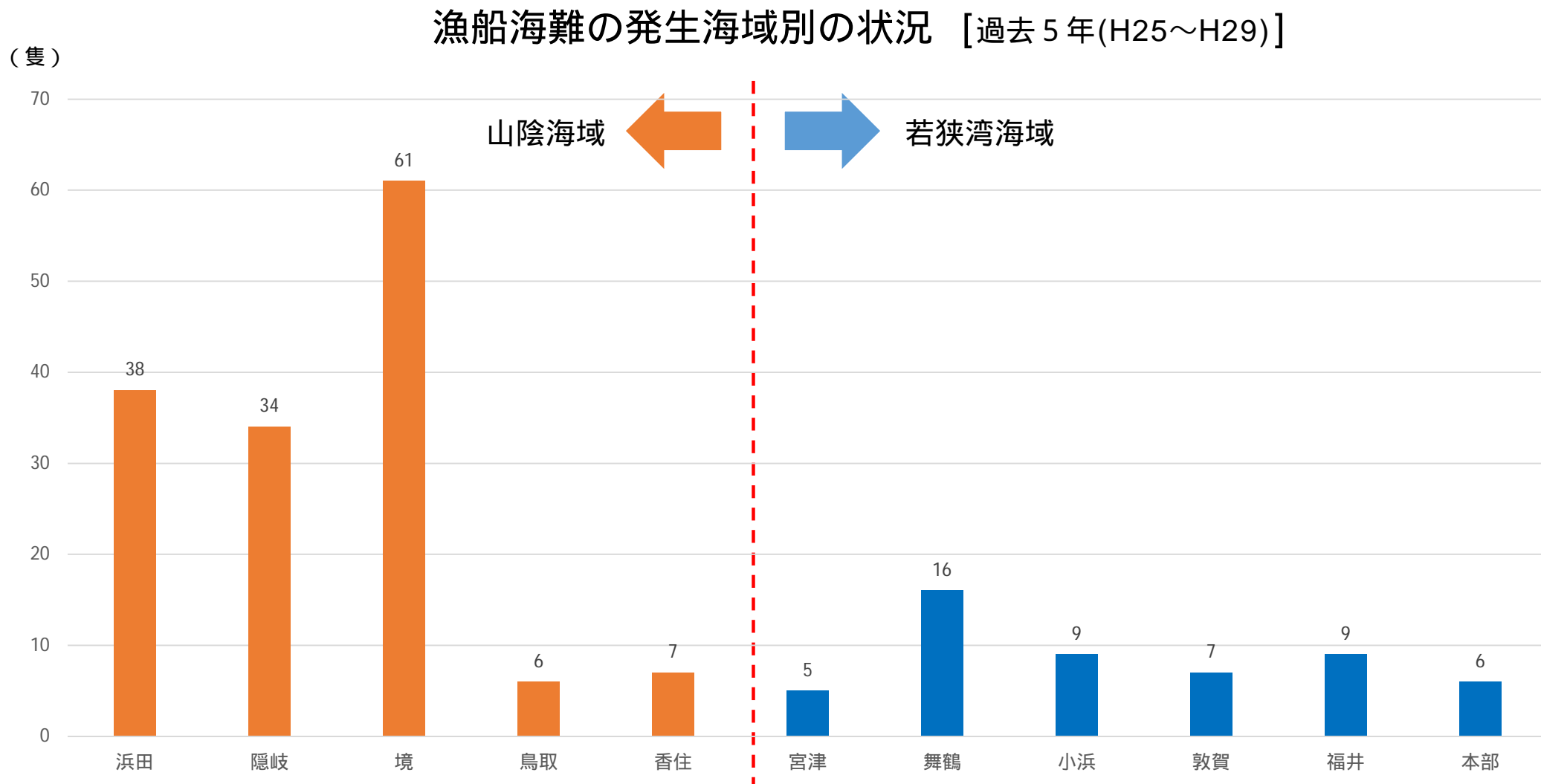
漁船海難種類別の船長の年齢構成比  
[過去5年(H25~H29)]

赤線が下ほど60歳以上の割合が高い



## 4 - 6 漁船海難の発生状況（発生海域）

- 漁船海難は、「山陰海域」で多く発生している
- 山陰海域の中でも突出している境管内では、約3割（19隻）が衝突海難



## 秋季における船舶海難の傾向分析

### 船舶海難と密接に関係する季節的背景

- 年間を通じ最も水産物の水揚げが活発
- 沖合底びき網漁業解禁（8月16日、9月1日）
- 日本海べにずわいがに漁業解禁（9月1日）
- ずわいがに漁業解禁（11月6日）

### ポイント

- プレジャーボート海難は、機関故障が多い 発航前点検の実施
- 漁船海難は、年間を通じて発生し、中でも船舶との衝突が多い 常時適切な見張りの実施
- 漁船海難は、一人乗りで高齢者が多い ライフジャケットの常時着用、連絡手段の確保

### 事故の特徴

- ✓ 秋季はプレジャーボート海難が減少傾向にある中、漁船海難は季節による変動が少ない
- ✓ 漁船海難は、年間を通じ発生し、秋季において「衝突」は増加傾向
- ✓ 漁船海難は、「一本釣り漁船」が多く、「底びき網漁船」は他の時期に比べて多い
- ✓ 漁船海難の衝突事故では船舶同士の「衝突」が多く、主原因は「見張り不十分」が多い
- ✓ 漁船海難の乗船者数では「一人乗り」が最も多く、年齢は「60歳代以上の高齢者」が多い
- ✓ 漁船海難は、「山陰海域」が多い

# 人身海難

---

# 1 人身海難 事故事例

## 【人身海難】

発生日時 平成29年10月7日(土)  
午後6時5分頃

発生場所 福井県三方郡美浜町菅浜漁港

概要 友人と消波ブロック上で釣りを楽しんでいたところ、釣り場移動の際に誤って消波ブロックから足を踏み外して海中転落した。駆けつけた救急隊員により救助。頸椎損傷により1週間程度入院。飲酒あり。



## 【人身海難】

発生日時 平成27年11月14日(月)  
午前5時45分頃

発生場所 福井県敦賀市鞠山海岸の沖防波堤

概要 友人4人で手漕ぎのゴムボートに乗り、沖防波堤に移動して釣りをしていたが、強風によりゴムボートが流出し、帰浜できなくなった。巡視船の搭載艇により全員救助。怪我等なし。ゴムボートは付近の岩場に漂着、回収された。

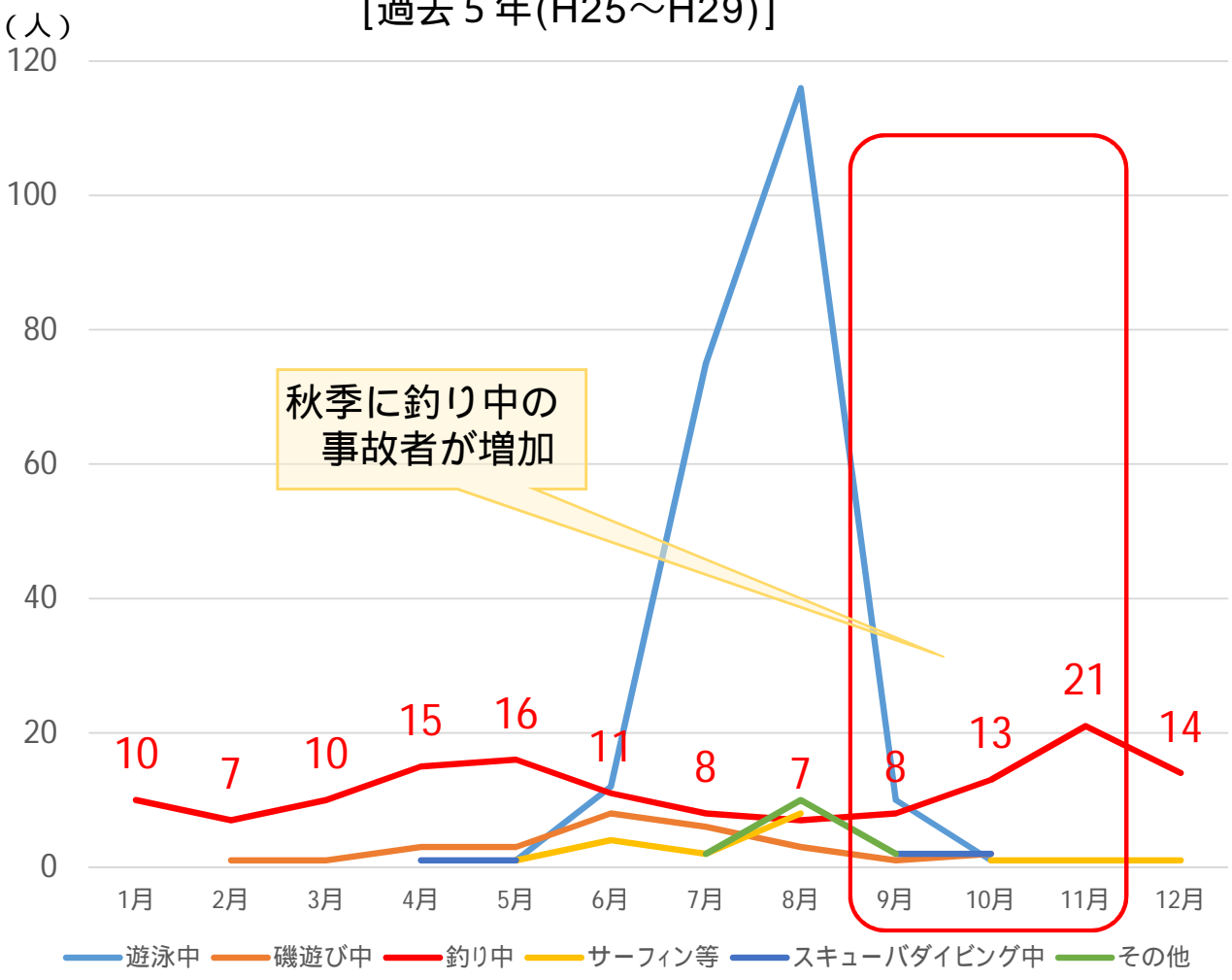




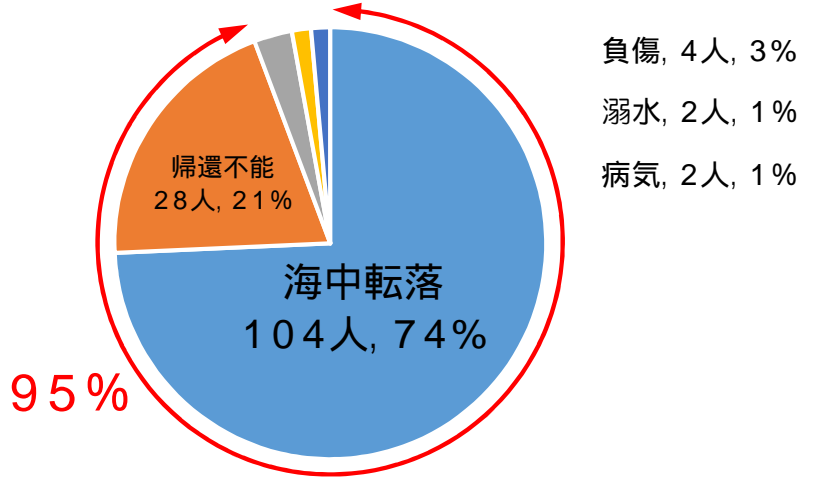
# 1 秋季における海浜事故発生状況

- 秋季は、遊泳中の事故が激減し、釣り中の事故が9月から多くなる
- 釣り中の事故は、海中転落・帰還不能で9割以上を占める
- 釣り中の海中転落者は、50歳以上が5割以上を占める

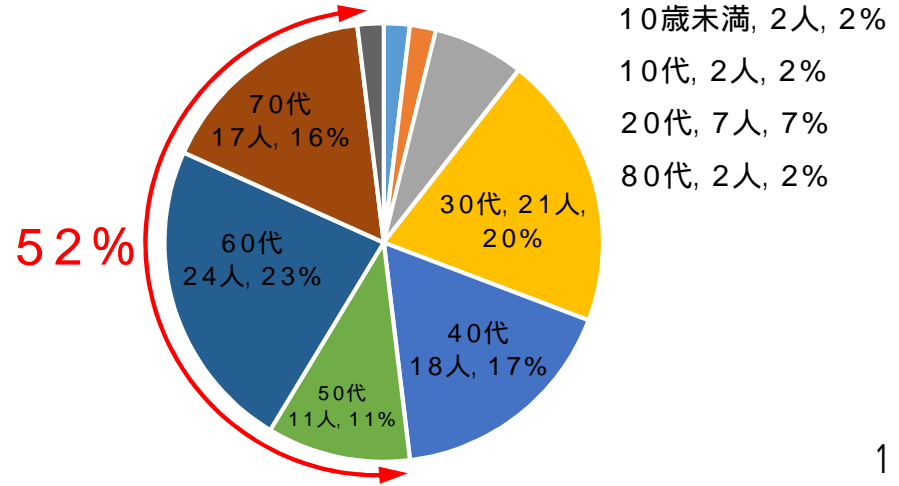
釣り中の事故の推移  
[過去5年(H25~H29)]



釣り中の事故の種類  
[過去5年(H25~H29)]



釣り中の事故における海中転落者の年齢  
[過去5年(H25~H29)]

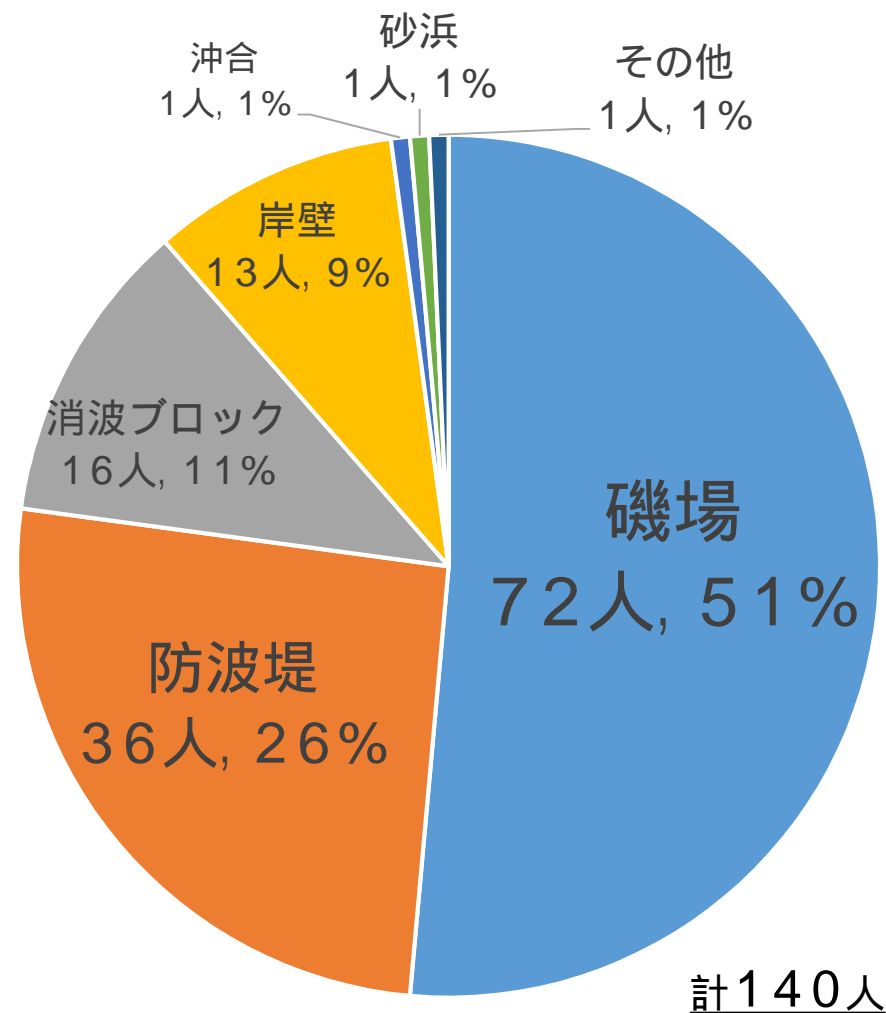
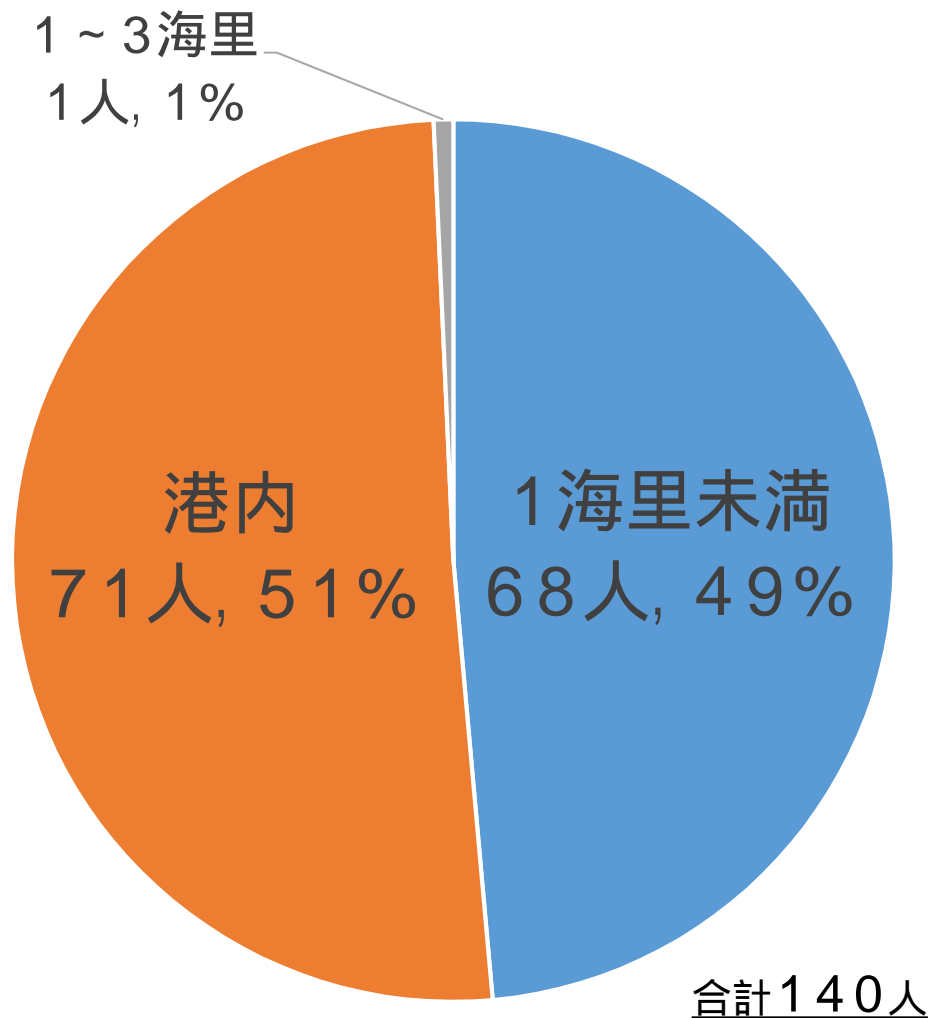


## 2 - 1 釣り中の事故発生状況（発生場所）

- 釣り中の事故は、大半が港内及び1海里未満の沿岸で発生している
- 釣り中の事故の発生場所は、磯場・防波堤・消波ブロックで約9割を占める

釣り中の事故の発生海域  
[過去5年(H25~H29)]

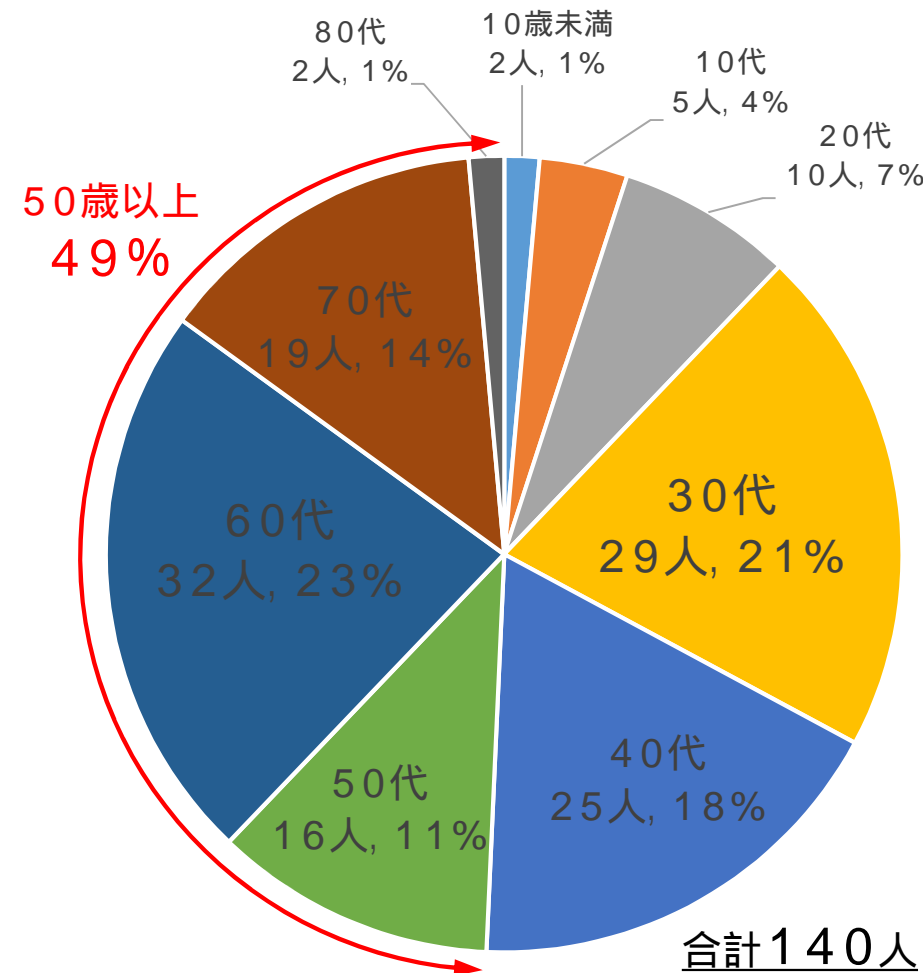
釣り中の事故の発生場所  
[過去5年(H25~H29)]



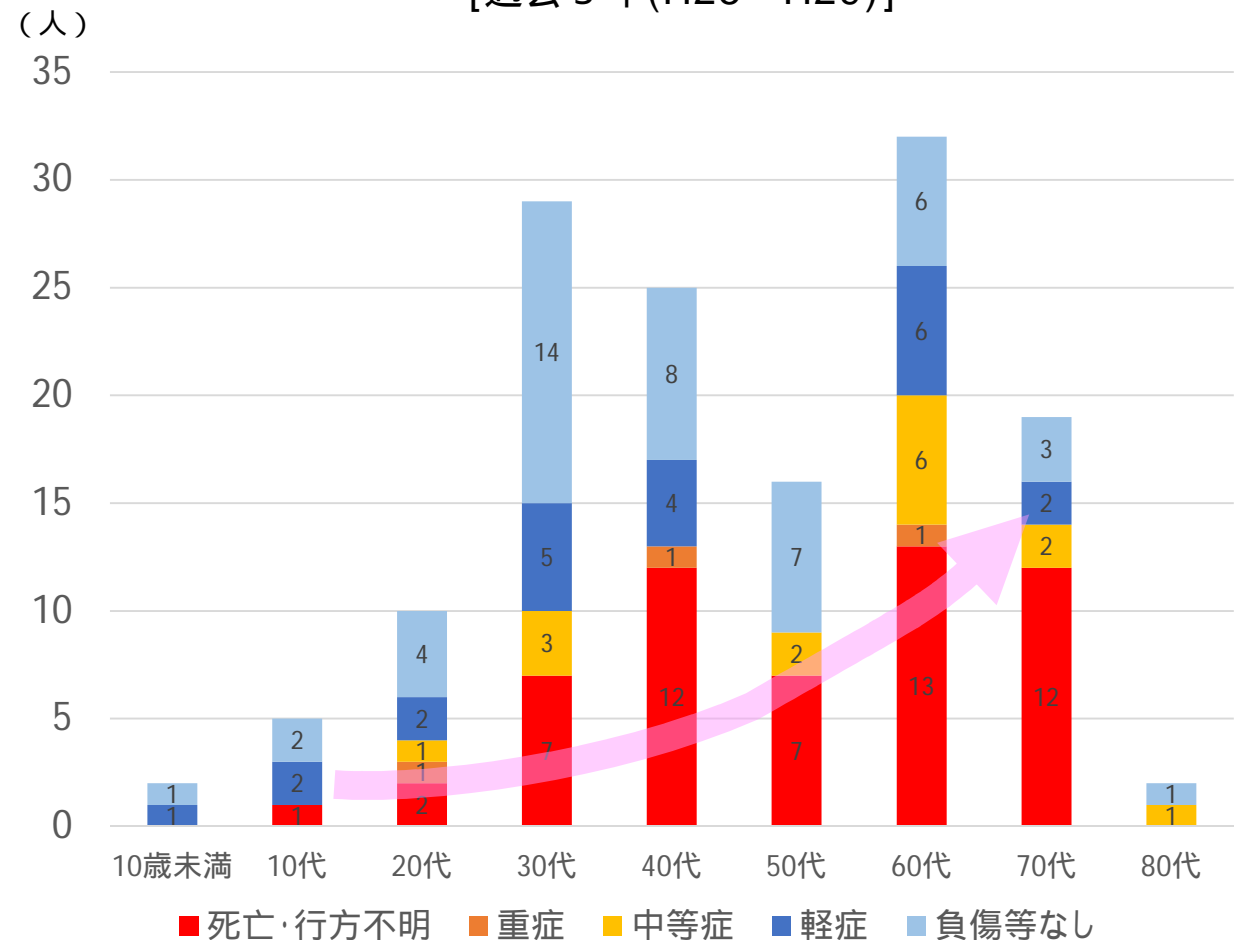
## 2 - 2 釣り中の事故発生状況（事故者の年齢と負傷の程度）

- 釣り中の事故者の年齢では、50歳以上が約5割を占める
- 年齢が高くなるにしたがって、負傷等の程度が重くなる傾向がある

釣り中の事故者の年齢  
[過去5年(H25~H29)]



釣り中の事故者の年齢と負傷の程度  
[過去5年(H25~H29)]

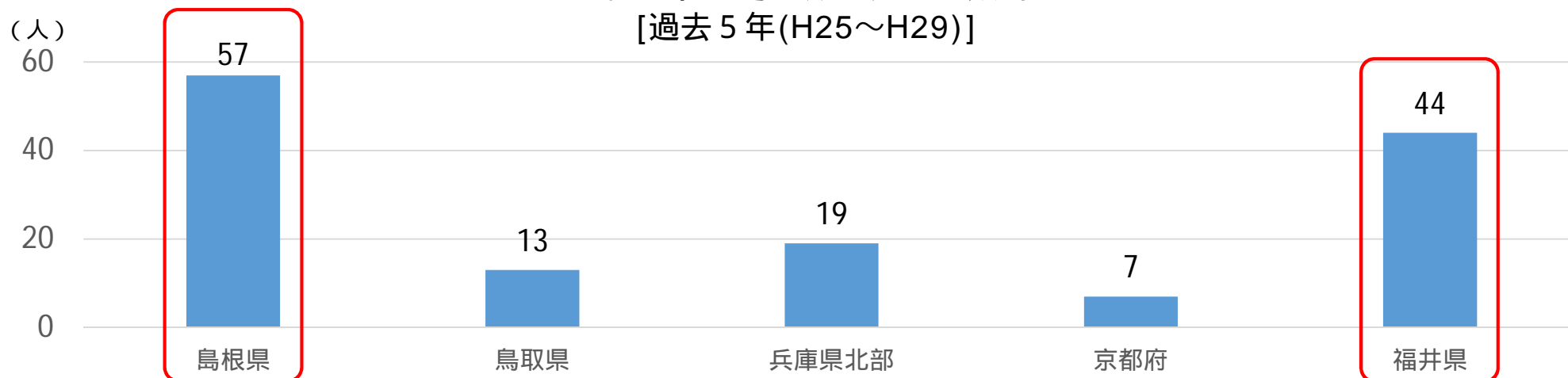


## 2 - 3 釣り中の事故発生状況（発生府県・事故者の居住地）

- 事故発生府県別では、福井県及び島根県が特に多い
- 釣り中の事故者は、管外の他府県居住者が4割以上

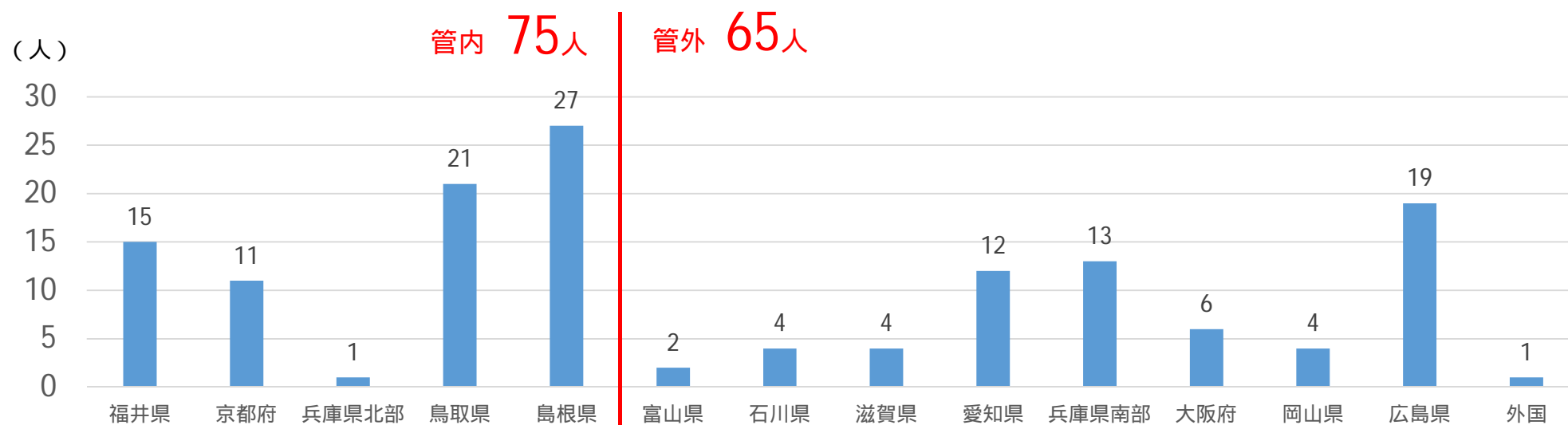
### 釣り中の事故の発生場所

[過去5年(H25~H29)]



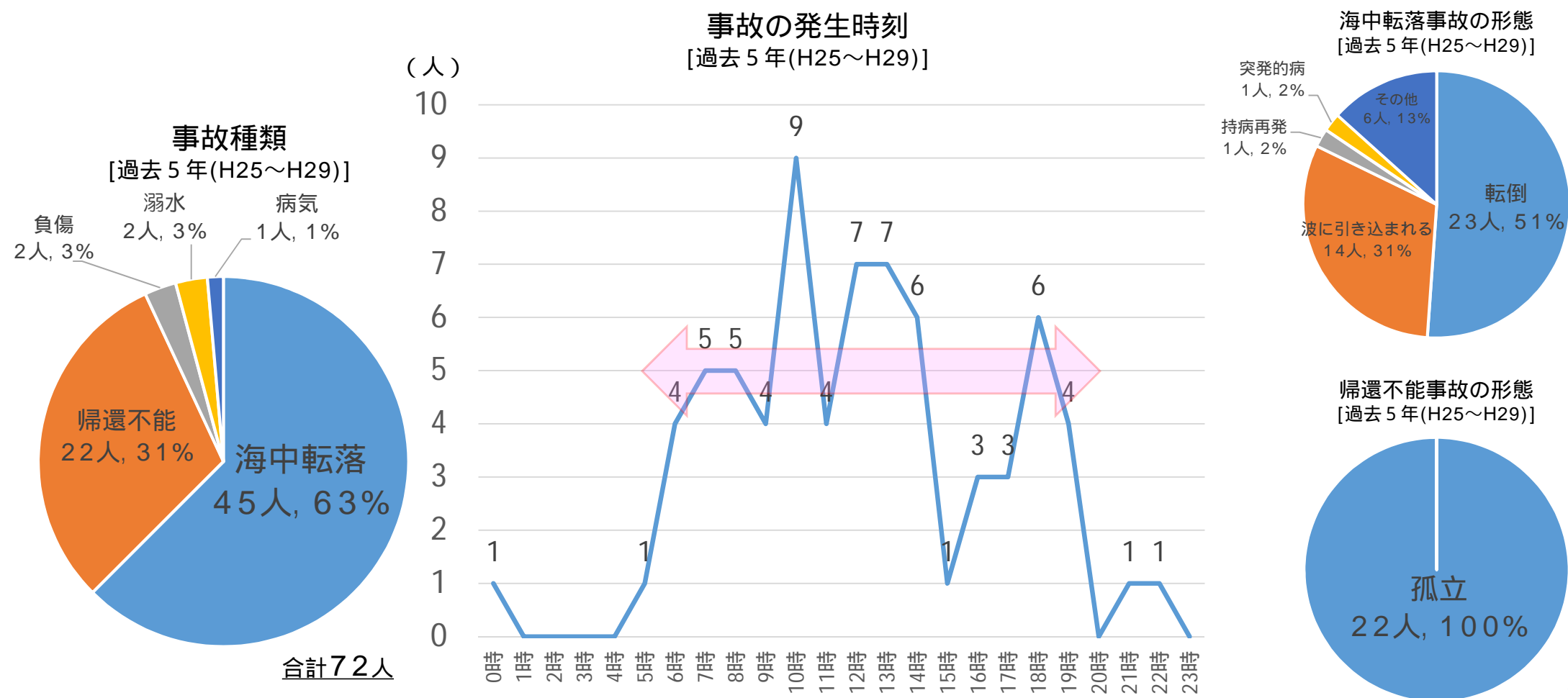
### 釣り中の事故者の居住地

[過去5年(H25~H29)]



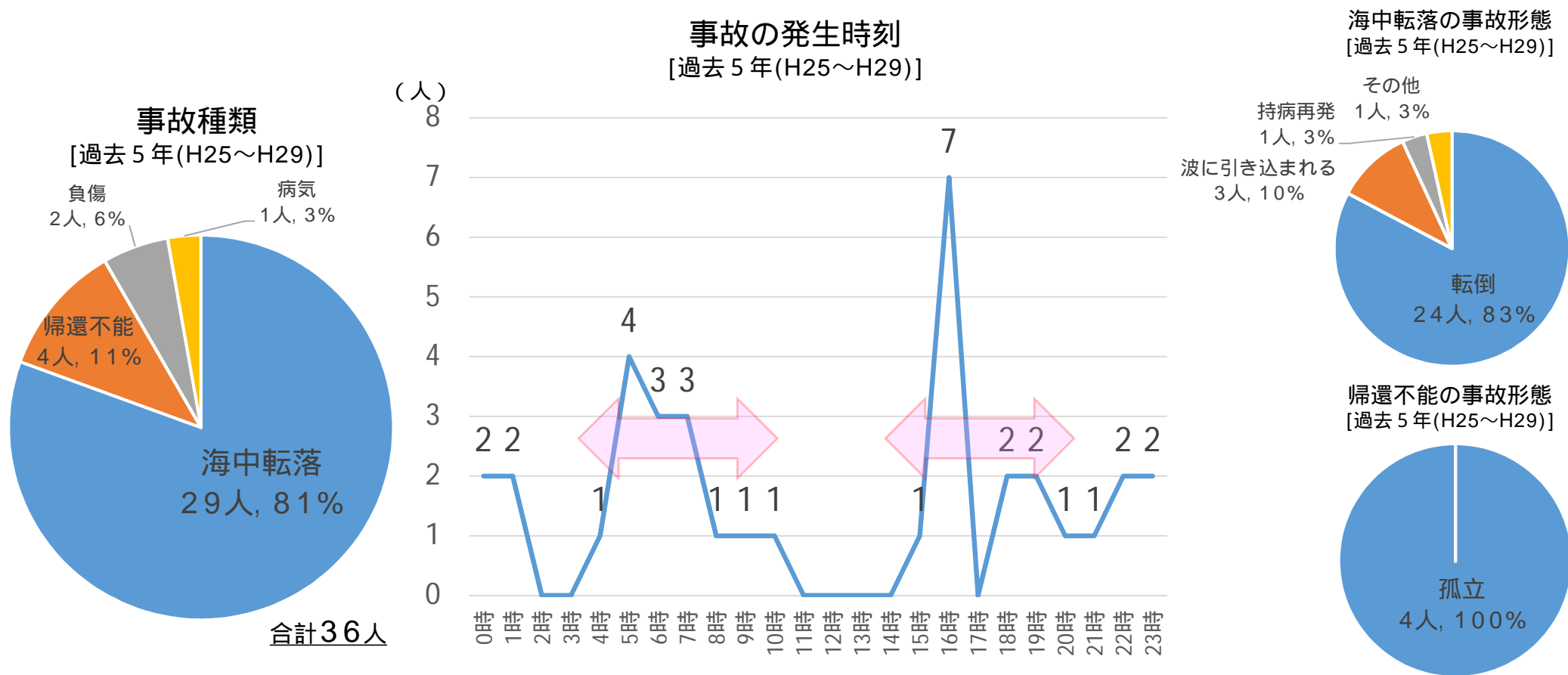
## 2 - 4 釣り中の事故発生状況（磯場）

- 磯場での事故は、海中転落が最も多く、次に帰還不能が多い
- 海中転落の事故形態は、日中・夕方の時間帯における転倒、波に引き込まれるが多い
- 原因：足場が悪い、気象海象不注意
- 帰還不能の事故形態は、孤立が占め、ゴムボートの流出等により帰岸できないものが多い
- 原因：気象海象不注意、周辺環境に対する不注意  
（慣れによる油断、潮位上昇、高波）



## 2 - 5 釣り中の事故発生状況（防波堤）

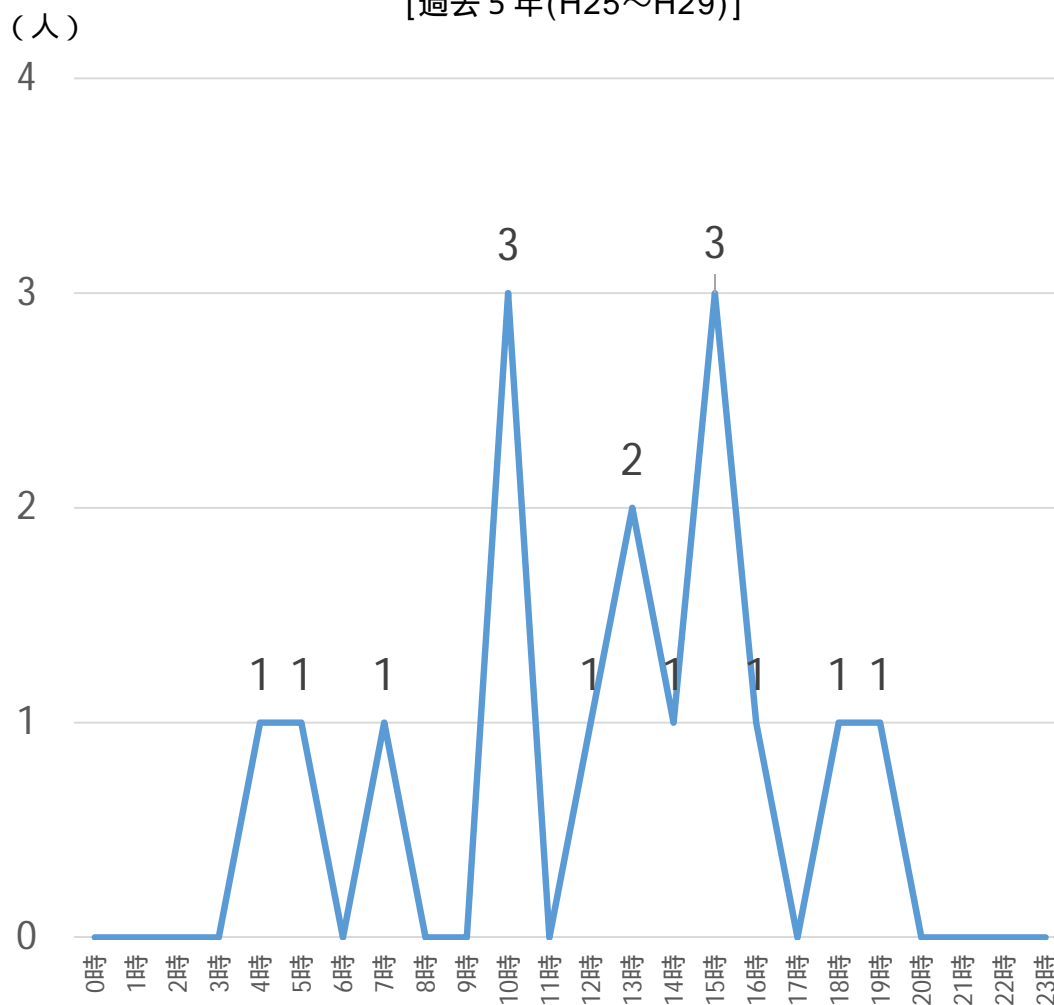
- 防波堤での事故は、海中転落が最も多く、次に帰還不能が多い
- 海中転落の事故形態は、朝・夕の時間帯における転倒が大半を占める  
原因：周辺環境に対する不注意  
(スペースが狭い、滑りやすい)
- 帰還不能の事故形態は、孤立が占め、ゴムボートの流出等により帰岸できないものが多い  
原因：気象海象不注意  
(慣れによる油断、潮位上昇、高波)



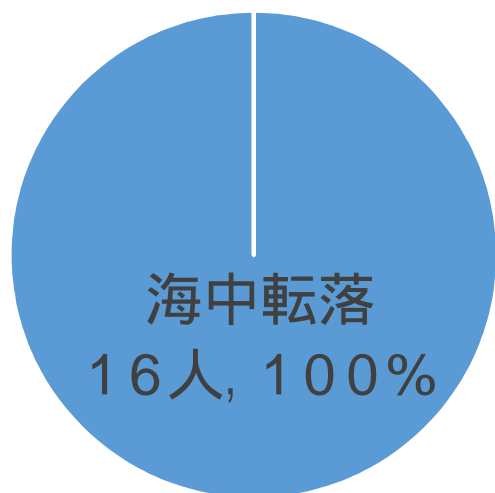
## 2 - 6 釣り中の事故発生状況（消波ブロック）

- 消波ブロックでの事故は、海中転落が占める
- 海中転落の事故形態は、原因不明を除き転倒が占める  
原因：周辺環境に対する不注意  
(滑りやすい、傾斜している、スペースが狭い)

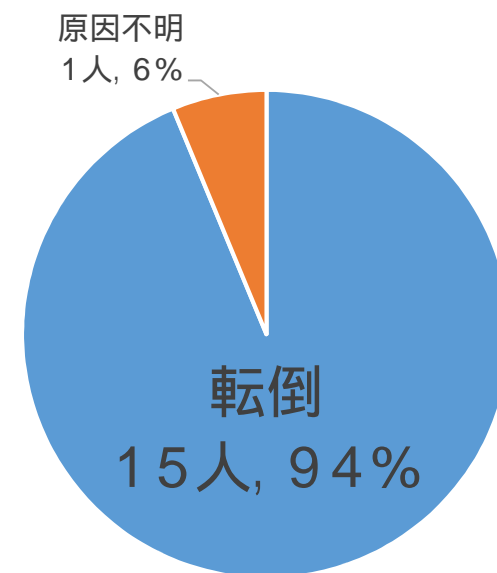
消波ブロックにおける釣り中の事故の発生時刻  
[過去5年(H25~H29)]



事故種類  
[過去5年(H25~H29)]



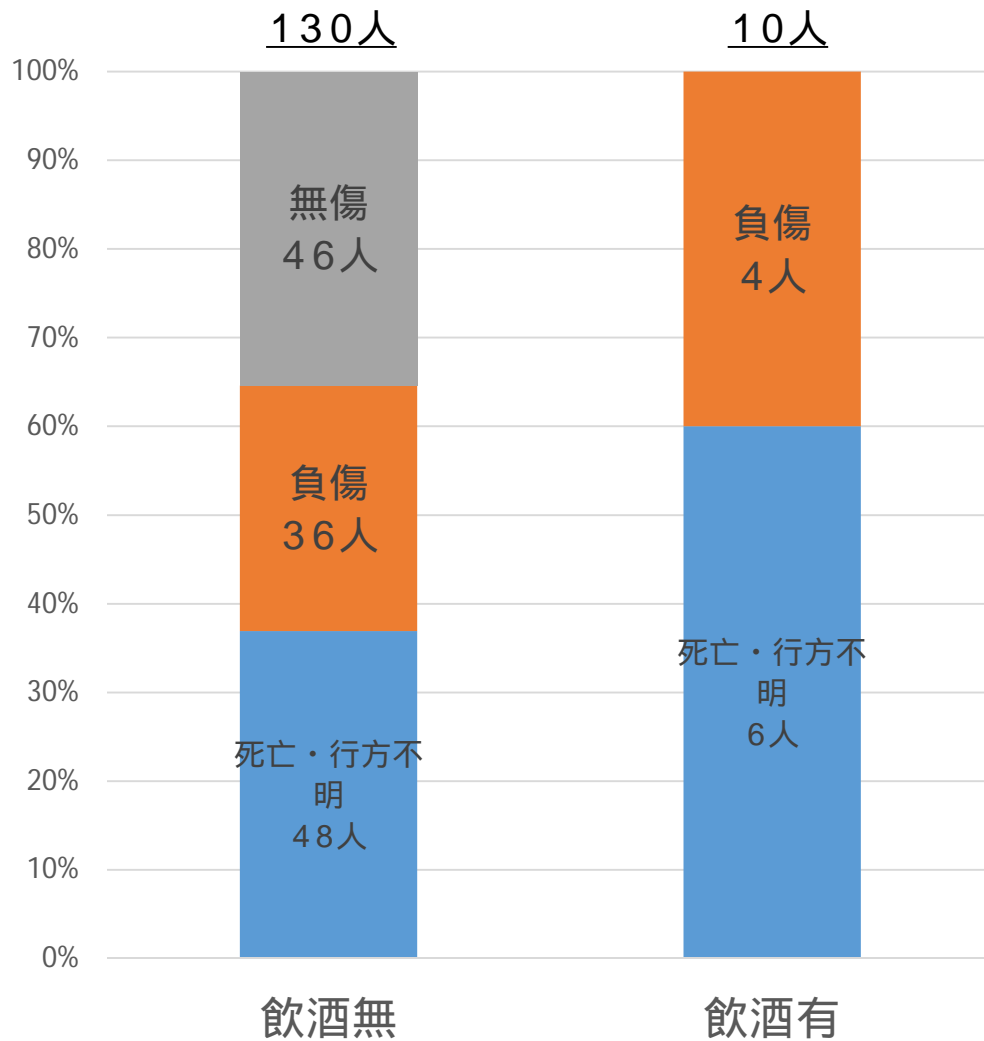
海中転落の事故形態  
[過去5年(H25~H29)]



## 2 - 7 釣り中の事故発生状況（飲酒）

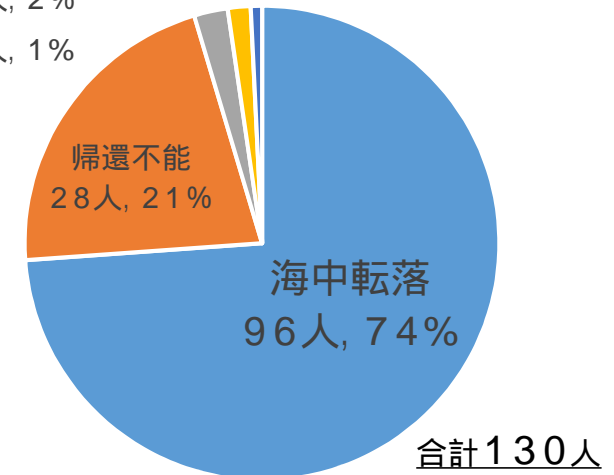
➤ 飲酒を伴う事故者は、死亡・行方不明になる割合が高くなる

飲酒を伴う釣り中の事故者の死傷割合  
[過去5年(H25～H29)]

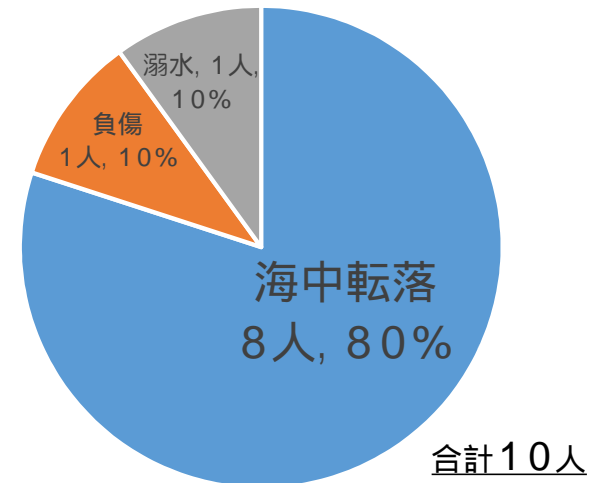


飲酒を伴わない釣り中の事故の種類  
[過去5年(H25～H29)]

負傷, 3人, 2%  
病気, 2人, 2%  
溺水, 1人, 1%



飲酒を伴う釣り中の事故の種類  
[過去5年(H25～H29)]

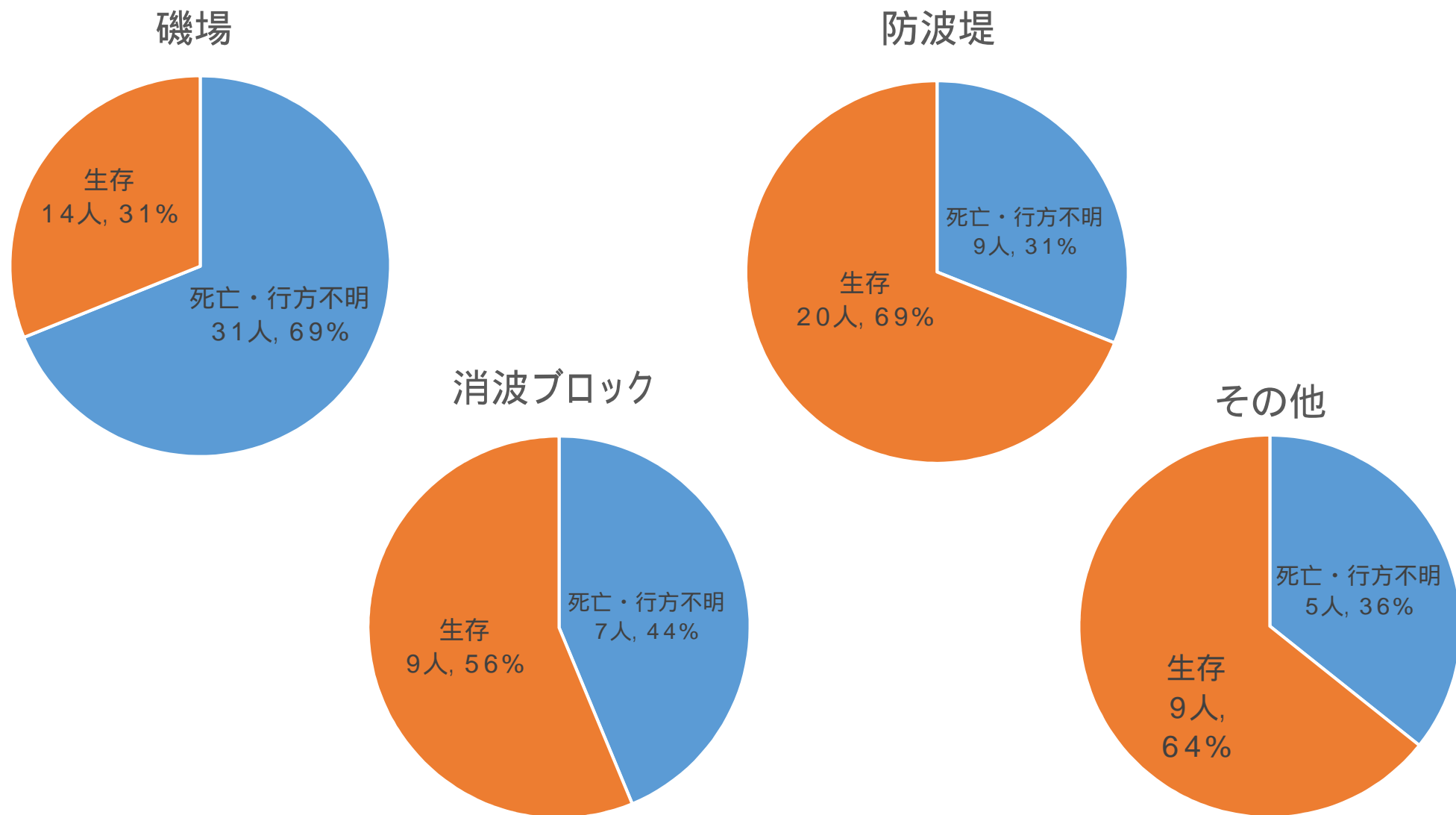




## 2 - 8 釣り中の事故状況（発生場所と海中転落時の生死）

➤ 磯場における海中転落は、約7割が死亡・行方不明

海中転落の発生場所及び事故者の状況  
[過去5年(H25~H29)]

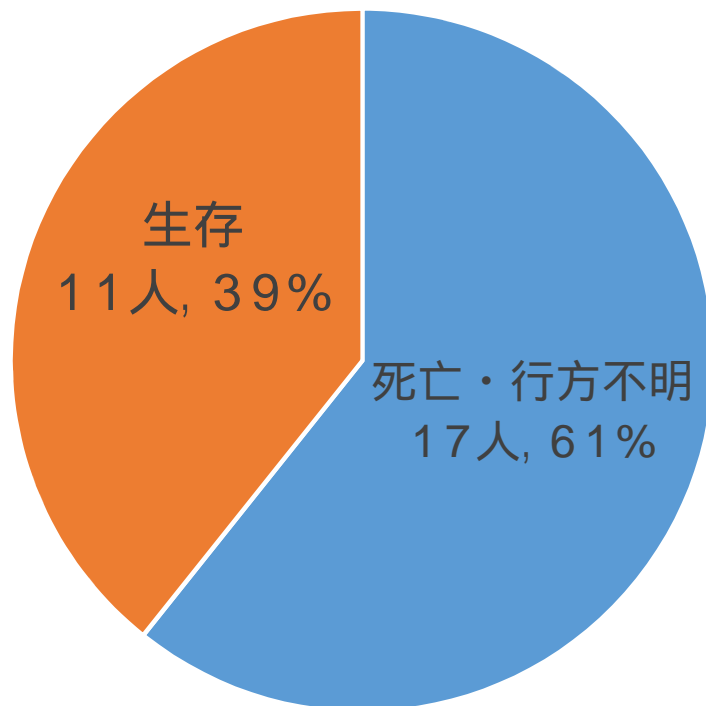


## 2 - 9 釣り中の事故状況（海中転落時のライフジャケット着用）

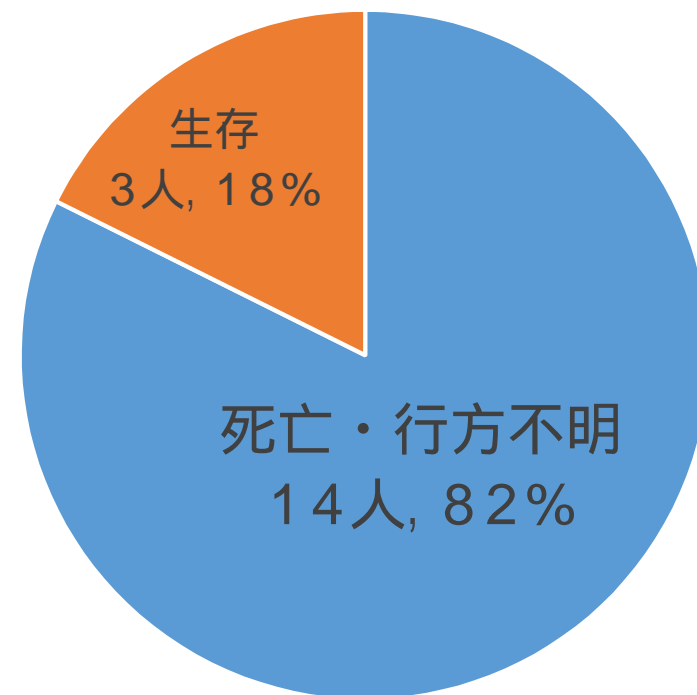
➤ 磯場における海中転落者のうち、ライフジャケット非着用者は8割以上が死亡・行方不明

磯場における海中転落者のライフジャケット着用と事故者の状況  
[過去5年(H25~H29)]

ライフジャケット着用(磯場)



ライフジャケット非着用(磯場)



### 3 まとめ

## 秋季の釣り中の事故の傾向分析

### ポイント

- 釣り中の事故では、**海中転落・帰還不能が非常に多い**  
気象情報の入手、足場が悪い場所で滑り止め付の靴等を装備
- **飲酒やライフジャケット非着用は、死亡・行方不明の割合が高い**  
釣り中にお酒は飲まない、ライフジャケットの着用は必須

### 事故の特徴

- ✓ 釣り中の事故は、**9月、10月、11月**で年間の**3割以上**が発生する
- ✓ 釣り中の事故は、**1海里未満の沿岸**における**磯場・防波堤・消波ブロック**での発生が多い
- ✓ 釣り中の事故者の年齢は、**50歳以上**が**約5割**を占める
- ✓ 事故発生府県別では、**福井県**及び**島根県**が特に多い
- ✓ **磯場**における事故は、**海中転落、帰還不能**が多く、**転倒・波に引き込まれる**で**8割以上**を占める
- ✓ **防波堤**における事故は、**転倒による海中転落**が多く、**8割以上**を占める
- ✓ **消波ブロック**における事故は、**転倒による海中転落**が占める
- ✓ **飲酒**を伴う事故は、死亡・行方不明になる割合が高くなる
- ✓ **磯場**における海中転落では、**6割以上**が**死亡・行方不明**となる
- ✓ **磯場**における海中転落では、**ライフジャケット非着用者は8割以上**が**死亡・行方不明**となる